

<環境省ニュース>

# 環境研究総合推進費への応募について

環境省総合環境政策局総務課環境研究技術室

## 1. 環境研究総合推進費とは

### (1) 目的

研究開発により環境政策の推進に寄与

環境研究総合推進費(以下「推進費」という。)は、地球温暖化の防止、循環型社会の実現、自然環境との共生、環境リスク管理等による安全の確保など、持続可能な社会構築のための環境政策の推進にとって不可欠な科学的知見の集積及び技術開発の促進を目的として、環境分野のほぼ全領域にわたる研究開発を実施しています。

### (2) 特徴

環境省が必要とする研究テーマ(行政ニーズ)に合致する研究開発を採択・実施

推進費は、環境省が必要とする研究テーマ(以下「行政ニーズ」という。)を提示して公募を行い、広く産学民官の研究機関の研究者から提案を募り、評価委員会及び分野毎の研究部会の審査を経て採択された課題を実施する、環境政策貢献型の競争的研究資金です。

環境省がトップダウン的に研究テーマや研究

リーダー等の大枠を決めた上で、研究チームを競争的に選定するシステム(戦略的研究開発領域)を設けるなど、行政ニーズに立脚した戦略的な研究開発を強力に推進します。

**外部委員の評価により制度運営の透明性・公平性・効率性を確保**

推進費において、事前評価(採択時審査)、中間評価、事後評価を行う評価委員会・研究部会は外部専門家・有識者等からなり、各研究課題は、必要性・有効性・効率性等の観点から審査されます。事前評価の結果に基づいて新規課題の採否を決定し、中間評価の結果に基づいて次年度予算額の増減を決定するなど、透明かつ公平で効率的な制度運用に努めています(図1~4)。

### (3) 研究の対象分野

平成25年度に分野を再編し、統合前の旧制度に由来する7分野(7分科会)から、「環境研究・環境技術開発の推進戦略について」(平成22年6月中央環境審議会答申)の構成に沿った、以下の5分野(5部会)構成としました。

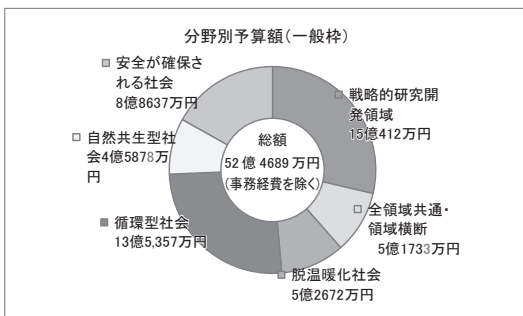


図1 平成25年度実施課題分野別予算額(一般枠)

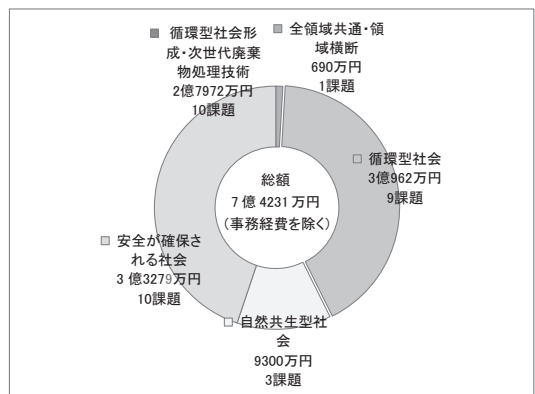


図2 同分野別予算額(復興枠)

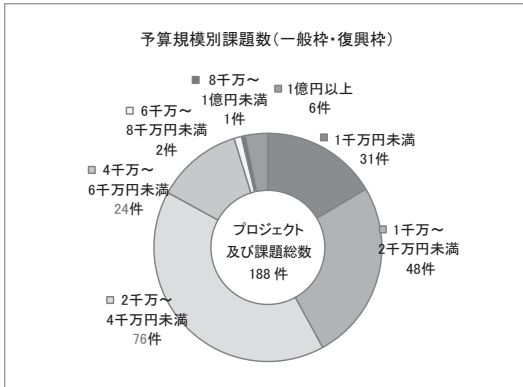


図3 予算規模別課題数(一般枠・復興枠)

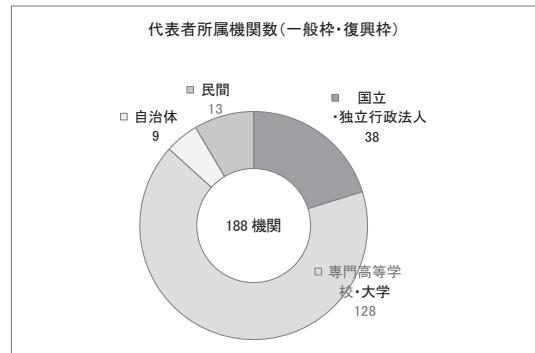


図4 代表者所属機関数

・全領域共通・領域横断(第1部会)

長期的な国家ビジョンの中でのあるべき社会(持続可能社会)に係る研究, 複数領域に同時に寄与する Win-Win 型の研究開発, 複数領域間のトレードオフを解消する研究開発 等

・脱温暖化社会(第2部会)

低炭素で気候変動に柔軟に対応するシナリオづくり, 地球温暖化現象の解明と適応策に係る研究開発, 低炭素化技術を社会実装するための最適パッケージ・システム化の評価・検討 等

・循環型社会(第3部会)

3R・適正処理の徹底, 熱回収効率の高度化, レアメタル等の回収・リサイクルシステムの構築に係る研究開発 等

・自然共生型社会(第4部会)

生物多様性の確保, 国土・水・自然資源の持続的な保全と利用に係る研究開発 等

・安全が確保される社会(第5部会)

化学物質等の未解明なリスク・脆弱性を考慮したリスクの評価・管理, 健全な水・大気の循環に係る研究開発 等

※エネルギー起源 CO<sub>2</sub>二酸化炭素の排出抑制に資する技術開発等は, エネルギー対策特別会計により別途実施されているため, 推進費の対象には含まれません。

2. 公募情報

・公募時期

公募の予定は, 推進費ホームページ, 環境・科学関係ウェブサイト等にてお知らせします。9月

～10月に公募要項を公表し, 期限を設け, 課題提案を受け付けています。

・応募方法

課題提案に必要な資料の様式は, 全て推進費ホームページ「課題の公募」からダウンロードできます。

課題の申請は, 「府省共通研究開発管理システム(e-Rad)」を通じて受け付けます。

・課題の選定

提案課題は, 書類の不備や各要件のチェック後, 外部の学識経験者により構成される環境研究企画委員会及び各研究部会において審査を行います。審査の手順は, 書面による第1次審査を経て課題を絞り, ヒアリング形式の第2次審査を行って, 採択課題の選定を行います。

採択課題の選定は, 例年3月頃です。講評などの審査結果は, 審査の終了後, 応募者へ送付します。

推進費の制度や公募の情報については以下のHPで公開しています。

<http://www.env.go.jp/policy/kenkyu/index.html>  
<http://www.env.go.jp/policy/kenkyu/suishin/gaiyou/index.html>

本年度も, 地環研研究者の皆様におかれましては, 積極的な応募をお願いいたします。